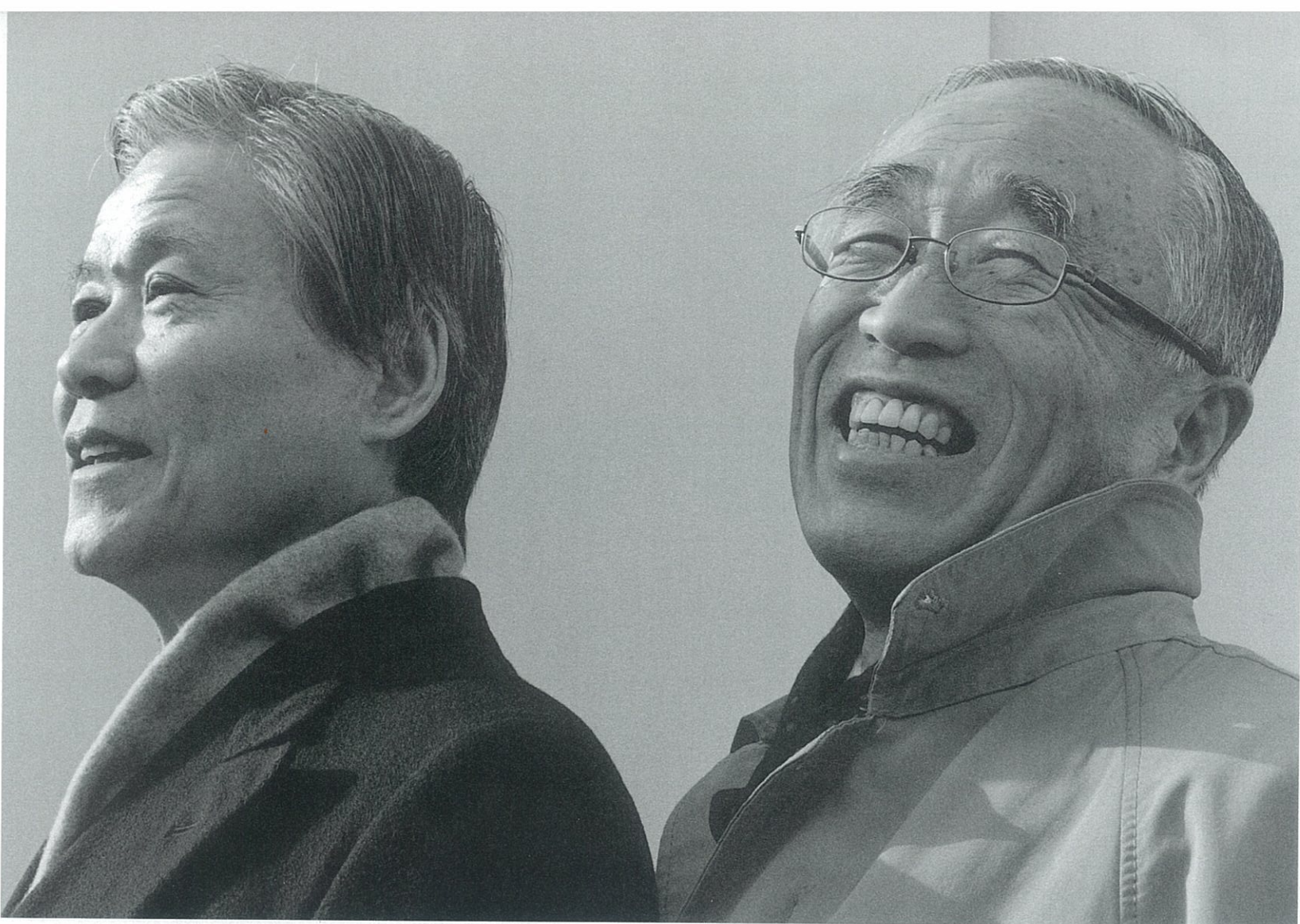


執念から生まれる 研究開発は



帝人で研究開発部門長を務め、バイオテクノロジーなど数々の主力事業を生み出した相馬和彦氏。一方の今村哲也氏も、花王で「ヘルシア緑茶」などのヒット商品を開発し世に送り出した人物である。幾たびかの逆境を経て研究者として大成したお二人は、これまでどのような思いで仕事に取り組んでこられたのだろうか。そこからは研究開発だけではない、人生の原理原則が見えてくる。

早稲田大学大学院
商学研究科客員教授

今村哲也

テクノ・ビジョン代表取締役

相馬和彦

対談

今村哲也——いまむら・てつや

昭和20年生まれ。42年慶應義塾大学工学部卒業後、花王石鹸(現・花王)に入社。東京本社FD事業部長、情報科学研究所長、研究開発部門統括執行役員ヘルスケア事業開発部長、同本部長などを歴任。退任後は早稲田大学大学院商学研究科客員教授やキッコーマン常勤顧問を務める。著書に「ガッタンと事業をつくれ!」「花王魂」(ともに生産性出版)。

相馬和彦——そうま・かずひこ

昭和16年東京都生まれ。44年東京大学工学系大学院博士課程修了後、帝人入社。生物工学研究所長、研究企画部長を経て取締役研究部門長に就任。その後シニアエグゼクティブオフィサー・高分子研究センター長を経て平成16年退任し、現在テクノ・ビジョン代表取締役。

わせていただきました。

それから私は毎年IRIには最優先で行くようになって、そこで必ず今村さんとお話しするようになってきました。

今村 この会合には、ビッグスリ(ゼネラルモーターズ、クライスラー、フォードモーター)をはじめとして自動車から鉄鋼、コン

るようになったんでしたね。

相馬 たまたま、私がよく知っている今村さんの花王の上司と同じ飛行機だったんですよ。「どこ行くの」と聞かれて「IRIで仕事があります」と答えましたら「うちの今村がIRIに参加するのに、いまちようどサンフランシスコ空港に来ている」と。そこで引き合

開発に対する思いが
上司を動かす

相馬 今村さんのお付き合いも長いですね。

今村 最初にお目にかかったのは確か一九九九年ですから十年ほど前です。IRI(米国製造業の研究開発トップの会合)で一緒に